令和６年度　国立市立国立第一小学校　学校経営方針

ver.令和6年4月1日

学校教育目標

「自分で考え　進んで活動する子」
〇蓄えた知識や技能を活用して諸問題を解決する力

「力を合わせて　高め合う子」
〇人を大切にする心や地域を愛する気持ちを表す行動力

「思いきり体を動かし　元気な子」
〇心身の健康と自他の安全を目指す実践力

学校づくりのキーワード　人づくり 地域づくり 夢づくり の実現に向けて

☆ほめて伸ばす　子供はもちろん、大人も

☆チーム一小　組織的な分掌 諸課題への対応 同僚性の強化

☆地域との連携　保護者・地域はチームの一員　ともに伝統の構築を

市や都の指針に基づいた校内体制の整備

〇一人１台端末の日常化と「オンライン学習」へのアプローチ
- 授業のツールとして、PC を日常的に使用していきます。
- いろいろな場面を想定して、Google Classroom の活用を一般的なツールにしていきます。
- 「使う」から「使いこなす」に。そして、日常化の姿である「使うかどうかを各自が選択する」を目指します。

〇働き方改革の推進
- 校務支援ソフト等を活用して、校務の時短やペーパレスの会議を実践していきます。
- 教職員の時間外在校時間を月４５時間以内に設定します。保護者への理解と協力も啓発していきます。
- ＳＳＳ（スクールサポートスタッフ）による校務支援の効果を、今年度も、さらに高めていきます。
- 学校と保護者との電話連絡の時間を7:45～18:00 にします。

〇フルインクルーシブ教育の土台となる特別支援教育の推進
- 特別支援学級「杉の子学級」との交流学習を、各学年でさらに充実させていきます。
- 教室での学びを高めるために、特別支援教室「はばたき」での指導の共有を日常化させていきます。
- 担任との協働を通して、SS（スマイリースタッフ）による教室での個別支援をさらに充実させていきます。
- 校内委員会において、個に応じた適切な支援体制を考えて実施していきます。

フルインクルーシブ教育に向けた土台づくり

〇一人一人のニーズと実態に合わせた教育活動の推進
- 「はばたき」の指導を全ての教員が共有します。
- 「ＳＳ」による学習支援を実態に応じて意図的に実施します。
- 「子供と家庭の支援員」による居場所つくりや登校支援を積極的に展開します。
- 「交流支援員」を積極的に活用して、杉の子学級の交流及び共同学習をさらに日常化させていきます。

〇互いを尊重し合う人権教育の推進
- 人権課題を知る機会を各学年に位置付けて実施します。
- 共に学ぶ機会を通して、互いのよさを認め合う友人関係を築いていきます。

地域と一体となって学校をつくる「コミュニティ・スクール」に向けた土台づくり

〇１５０年間で培った「チーム一小」のさらなる推進
- 地域への参加と学校への参画をどちらも可能な範囲で実現していきます。
- 地域の方を招聘した教育活動を積極的に行っています。

チーム一小　７つの取組

その１　校内研究を通した学力向上・授業力向上・組織的な教育力の向上・授業の質的転換

〇市研究奨励校１年目	→学び合う教員集団をさらに成熟させます。
〇教員一人一人の指導スキルの向上を目指した校内研究	→「国語」「理科」「体育」を中心に据えた授業研究
〇ゴールは「主体的で対話的な深い学び」	→子供の学び合う姿が常に見える授業の実践
〇一人１台端末の学習での活用を全ての教員のツールに	→実践交流会の通した校内研究

その２　みんなでやれば学力が伸びる　学力の向上＝指導力の向上

〇「わけをそえて」「伝え合い」を授業スタイルの根幹に	→全ての授業で日常化を目指す。
〇基礎的知識や技能の習得	→全クラスで計画的な宿題の実施。朝学習（１５分学習）の完全実施
〇各教科で問題解決型学習の実施	→課題把握、自力解決、検討、まとめを意識した授業（絞って効果的に）
〇学級づくりは授業力の向上から	→望ましい学級経営、専科経営を目指して授業力で信頼関係を結ぶ。
〇学力調査で結果をだす。	→各学年での「絶対やりきるプロジェクト」今年もやりきる！

その３　地域や保護者、学校を支えてくれる人とのつながりを「ふるさと谷保プロジェクト」としてカリキュラム化に

〇世界企業「ヤクルト」との授業交流	→６年理科の発展として
〇城山「さとのいえ」との人・もの・場所の交流	→稲作体験（５年）、自然散策（１年・２年）
〇谷保の自然と文化を教材化	→年間を通した「城山探検」「湧水の散策・観察」（３年）
〇ＡＳＳの活用で学力向上	→担任との連携でいわゆる「補習」への発展を
〇一小の児童中心の本町学童クラブと支え合う関係に	→連絡と連携の強化
〇一小ソフトのメンバー発掘	→ＰＴＡサークルのソフトボールへの協力・支援
〇目指すは三中生、そして、「幼・保・こ」との連携強化	→スムーズな連携を目指した「かけはしプログラム」の立案と試行
〇地域の方を招いた授業の実施	→被爆体験、租税、薬育、人権、命の教育、谷保の自然や歴史 etc.
〇１５０周年での取組をレガシーに	→「１５０周年」の取組を振り返り、誇りにしていく。

その４　体力向上を目指したこれまでの取組を確実に実行する。

〇体力テストで結果をだす。分析を生かす。	→市の体育協会の指導の下、全学年で体力テストに備える。
〇日々の体育の授業とともに強化旬間で取り組む。	→長なわ、短なわ、持久走を計画的に実施する。

その５　個を大切にすることで初めてできる集団、日々の徳育

〇「杉の子学級」との交流学級、交流学習	→全ての学年で日々の連携。設置校ならではの相互交流の試行
〇みんなが生き生きと生活する学級づくり	→学校生活満足度調査「Q-U」と構成的エンカウンターの活用
〇「ほめる」「できる」「ほめる」の連鎖	→ほめられるように指導、成功、ほめる　の流れを教師がつくる。
	→クラスの中の配慮児童を生かした学習、学級経営を
〇人権教育の推進	→人権課題を知る機会を各学年に位置付けて実施します。
〇生命尊重の授業を全学年で実施	→命の教育、いじめ撲滅を旗印とした道徳授業の実践
〇「はばたき」による個別の指導を生かした日常の実践	→各学級での指導や日常的な声かけに生かす。
〇ＳＳ（スマイリースタッフ）による支援の協働	→担任とＳＳの協働をさらに推進する。
〇がんばりをみんなでたたえる雰囲気を	→表彰大歓迎。その日の朝の報告でも表彰します。
〇「幼・保・こ」の園児との交流の促進	→教職員の相互交流の推進と子供の交流を推進する。

その６　だれもまねできない創立 150 年　その誇りと自慢

〇「自慢の一小」をＰＲ　子供が、教員が	→自ら「あいさつ」をみんなで。きれいな学校をみんなで。
	→手本は６年生。６年生を見上げる指導を伝統に。
	→組織的な校務運営。すき間を埋める教員の動きも自慢。
〇「ふるさと谷保」を見据えた谷保の魅力の共有を	→地域行事の情報共有と参加の促進　４年生での「天神太鼓」の取組
〇「ふるさと」「国立市制 50 周年記念の歌」を歌い継ぐ。	→いろいろな行事で歌う。音楽の授業で計画的な指導の継続。
〇地域の願い、地区の子供会の参加率向上への一助	→夏休み前に、地区の行事への参加を声掛ける。

その７　安心・安全　の実現

〇全ての教員で、朝の児童の登校を迎える。	→教室で迎える。玄関で迎える。校門で迎える。
〇みんなで見守り「おかえりなさいの日」	→毎月１日実施。ＰＴＡの発案を、保護者、地域に広げていく。
〇石神道のスクールゾーン化を宝物にしていく。	→「見守りボランティア」とPTA の馬出し見守りに感謝
〇いじめ未然防止、早期発見、早期対応	→報連相で「いじめ対策会議」の早期開催、早期対応
	→「Q-U」を活用した健全な学級経営、毎日の声かけ
〇登校しぶり児童や不登校児童に寄り添う。	→「家庭と子供の支援員」による個に応じた支援と対応を。
〇避難訓練、防災体験	→６年間を通した計画的な実施。これからも継続。